

【担当教員名】 亀田和夫	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<概要>

聴覚の特性について学び、言葉の障害に対処するためにこの特性をいかに応用するかを考える

<学習目標>

1. 聴覚心理の解析方法を理解する
2. 音の心理的屬性について学ぶ（高さ、大きさも含む）
3. 聴覚心理の応用について考察する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
		番号	
1	聴覚心理の解析方法	1	
2	音の心理的屬性	2	
3	聴覚の範囲と弁別閾	2	
4	音の高さ	2	
5	音の大きさとマスキング	2	
6	両耳現象	3	
7	音声の認知	3	

	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	聴覚と音響心理	境久雄	コロナ社	4600円
参考書	声と言葉のしくみ	亀田和夫	口腔保健協会	1986年 1600円 ISBN : 4-89605-044-4
その他の資料				

【評価方法】

出席、演習中の応答、レポートの成績、定期試験の成績を総合評価する。

【履修上の留意点】

既習の音響学、音声学の知識を活用できるよう準備しておく